

これからの学校教育に求められるもの
一急激に変化する時代を生き抜いていく子どもたちのために一

◎今日の学校教育が直面している課題
○学校の負担が増大 ○子どもたちの多様化 ○情報化への対応の遅れ ○生徒の学習意欲の低下
○少子化・人口減少の影響 ○教師の長時間労働 ○感染症への対応



□「学習指導要領」

～ 生きる力 学びのその先へ ～
学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。
これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、
自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。
そして、明るい未来を、共に創っていきたい。
(2020年度から始まった学習指導要領に込められた願い)

◇ 子どもたちの学び

◎主体的・対話的で深い学び

○「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善する。

・一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業に
・見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に
・周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に
・自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生

⇒

○実際の社会や生活で生きて働く
知識及び技能

○未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力など

○学んだことを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう
三つの力をバランスよく育む。

□「令和の日本型教育」

「令和の日本型教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～
(令和3年1月 答申)

◎「個別最適な学び」

○先生が、子ども一人一人の個別の特性や学習の状況・興味・関心等に応じて学習を柔軟に提供
○子どもが自身で最適となるよう調整

◎「協働的な学び」

○子ども一人一人の状況等に応じて、子ども同士あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する

◎学びの姿

○教材との出会い
↓
○「問い」「願い」あれ? どうして? 知りたい やってみたい
↓
○一人一人の課題をその子なりに追究
学び方も子どもたちが選択
↓
○グループ、全体で共有
全体の前で発表 クラウド上で共有
↓
○個の学びの広がりや深まり
新たな課題

◎「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用

○学校教育の基盤的なツールとしては必要不可欠なもの
○これまでの実践とICTとを最適に組み合わせていく

・ICTを主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、今までできなかった学習活動の実施や家庭など学校外での学びを充実する。
・特別な支援が必要な児童生徒へのきめ細かな支援や、個々の才能を伸ばす高度な学びの機会の提供など、児童生徒一人一人に寄り添った指導を行う。

◎これまでの学び

○先生が与えた課題
○一斉授業
○先生が教授
○暗記
○知識のテスト

◎これからの学び

○個の学び（自分で課題を見つけ自分で答えを出す）
○仲間と議論
○教え合い
○探究活動
○ICT活用
○発表

□「辰野町が目指す教育ビジョン」

○基本理念
一人一人の個性や特性に応じた学びを支援することを通して、将来に向かって学び続ける子供の育成を図る。

○育てたい人間像
・広い視野と豊かな創造力を持った子供の育成を図り、これからの予測困難な社会にあっても力強く生き抜く力を備えた人
・ふるさと「辰野町」に学び、故郷に誇りや愛着を持った人

○辰野町が目指している教育
未来に向かって生きる（伸びゆく）「たつの子」

○辰野町教育委員会の目標
○ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造
楽しい毎日・充実した学校生活の提供

明日も行きたくなる学校